

# 大学図書館問題研究会 京都

京都市左京区北白川追分町 京都大学数理解析研究所図書室 (提豪宛気付)

TEL 075-753-7223

## 第15回 京都支部総会

現場実践・研究報告を中心とした新方式の支部総会

日時	1992年10月24日(土)
	第Ⅰ部 1992年度議案討議 午後1時半～2時
	第Ⅱ部 現場実践の探究 午後2時～5時
	— 実情・問題点・実践の報告と交流 —
会場	同志社大学クローバーハウス(烏丸今出川、図書館裏)
懇親会	総会終了後(参加費5千円)

支部総会は今年からごろっと様変わりします。総会を現場の諸問題についての報告交流という実践探究の場として位置付け、第Ⅱ部を中心に運営します。

NACISIS入力や検索、自館OPACの実情・問題点、研究支援業務としての図書館業務の新しい模索、統計から見た蔵書の分析・評価、スエッツによる外国雑誌の学内一括購入計画の報告、図書館の自己評価内外の研究・実例報告などがいま話題に上っています。その他の報告も準備されつつあり、場合によっては二つないし三分科会に分けないと報告し切れなくなるかもしれません。

報告内容は現在まだ流動的ですが、確定次第皆さんにお知らせします。

# 第 1 号議案 1 9 9 1 年度活動の総括と 1 9 9 2 年度活動の方針

## [ I ] 1 9 9 1 年度支部活動の総括

はじめに

完全週休二日制実施にともない国立大学の図書館は土曜開館問題で大ききくゆさぶられました。政府・文部省は、金も人も一切手当てせず、すべてを現場任せにするという無責任さでした。

情報量はますます増え、相互協力が飛躍的に増加するなど金も人も増やさなければならぬ状況のもとで、逆に、図書費の削減、第8次定員削減等およそ常識では考えられないことが国立大学では進行しています。

多くの私立大学では、今後進行する18才人口減少を乗り切り、生き残りをかけての経営「合理化」をベースに、政府・文部省の意向に迎合し、それを先取りする方向で「自己評価」をはじめとした大学改革が論議されています。

一方、困難な条件のもとでも国民のための大学づくり、利用者サービスに徹した図書館づくりが模索され、一定の前進をしている大学や職場もあります。

このような状況のもとで私たちは以下のような活動を行いました。

### 1) 『京都の大学図書館』発行

今年度もっとも社会的に反響を呼んだ活動は『京都の大学図書館』207部の発行でした。

京都の大学図書館関係者、特に所属会員の多くの方の協力を得て2度にわたるアンケート調査を行ない、それをもとに松原、大館、村上の3氏によって300頁にも及ぶワープロ打込が行なわれ、版下が作成されました。この版下作成による大幅な印刷費軽減と有志会員からの一時借入金による資金繰りで財政的に発行が可能となりました。

寄贈は、協力館および日本図書館協会、日本図書館研究会、国会図書館、京都府立及び市立、滋賀、奈良、大阪、兵庫の各府県立図書館に計73部。

頒布は一口2千円以上のカンパに対し行ないました。京都の支部委員および村上氏、常任の大日方氏、大阪の湖城氏などの協力により71部、事前の予約および支部報や『大学の図書館』の情報を見ての申し込みが約13部、計約84部を頒布しました。また『大学の図書館』の購読会員である毎日新聞記者により同紙夕刊に紹介され、上記とは別に会員外から46部の申し込みがありました。こうして寄贈と併せて総計203部を発行後わずか3ヶ月たらずで頒布しました。

この間申込受付・郵便振替のカンパ受取り（担当橋本氏）、現物の発送（担当西野氏）が連日のようにあり、担当者は大変でした。

新聞記事を見て申し込んで来た人の中には、内容を評価し、我々の労を多とする丁寧なお礼の葉書や電話をしてくれた人も何人かありました。このことは、市井の人たちにとって大学の図書館が如何に開かれていないかということ、したがって大学図書館公開の問題を単なる手続問題としてのみでなく、その利用方法など大学図書館の情報を国民にむけて我々がもっと広範に発信する必要があることを示しています。

## 2) 大図研大学第Ⅱ期の開講

専門性を高め、利用者から信頼されるライブラリアンに成長するため、京都支部はここ数年一貫して継続教育・研修を重視し、大図研学校、大図研ゼミ、大図研大学を開講してきました。1991年度も第Ⅱ期大図研大学を下記のように開催しました。

①主題分析	10/26(土)～10/27(日)	講師	丸山昭二郎	参加	15名
②英米法	11/9(土)～11/10(日)	講師	堀田牧太郎	参加	7名
③統計	12/7(土)～12/8(日)	講師	細川元雄	参加	10名
④英書購読	第1回 10/5(土)以後隔月	講師	篠原俊夫	参加	10名
⑤参考調査	第1回 10/25(金)以後毎月	事例の共同研究		参加	6名

▽「主題分析」は難しかったという声はかなりありましたが、事前に講師の著作を読んで良く準備した受講者は、講義を受けて書いてある内容が本当に良く分かったということでした。

▽「英米法」はここ数年の講義のうちで教授法が最も優れていて極めて好評でしたが、残念ながら受講者が大変少なく残念でした。

▽「統計」は基礎から利用の仕方迄含め総合的な講義でした。実際の過労死の数が発表されていない状況のもとで各種統計を比較分析し、その実態に迫るという事例は、我々に統計というものを考えさせる上で印象的でした。

▽「英書購読」は隔月に、「参考調査」は毎月行なわれました。好評であり今後も継続開催の予定です。

今年度もまた、土曜日曜の2日間にわたる8時間集中講義は参加しにくく、講義内容の良さにも拘らず広範な参加が得られないという結果になりました。

継続研修こそライブラリアンの足腰を鍛える最も重要な活動であり、内容とそ

の魅力をもっと伝える宣伝にもっと留意するとともに日程の上からも参加しやすい形態に今後さらに工夫が必要でしょう。

### 3) 新春五支部合同例会の開催

講師は同志社大学井ヶ田良治教授（日本法制史）、テーマは「三くだり半」。1月18日（土）開催。参加者47名（京都20、大阪15、兵庫 9、奈良3名）と盛況でした。講演内容も充実していました。

成功の理由は、良い講師に恵まれたこと、テーマについて早くから支部委員会で討議するなど良く準備をしたことにあります。

即ち、先ず講師の研究実績から6項目のテーマをあげ、支部委員会で討議した上周囲の人の意見を聞いて貰いそれを講師に伝えました。講師は二つのテーマに絞り「どちらかを選んでくれ」と言ってきました。そこで再び支部委員に皆さんの意見を聞いてもらい、最終的に「三くだり半」と決定しました。この間電話や全国委員会などで他の4支部に対し取り組み状況などを伝え、最終決定以前にも一定の予告をしました。

この決定過程が講師やテーマの魅力とあいまって運動として力を発揮したのではないかと思われます。

### 4) 現場実践重視の活動

昨年の総会で決定した活動の方針は『政策骨子』を基礎に現場実践を重視するというのがその基本でした。支部委員会ではそれを運動化する具体策として「支部総会」そのもののあり方を変え、「支部総会」自体、現場実践に役立つ報告、交流、研究発表の場にする方向で検討してきました。

具体的には、大学毎に現場の諸問題を検討し、図書館活動改善の方策を探り、その活動内容を支部総会で報告するというものです。

9月10日現在、各大学でその取り組みが始められつつあります。京大では全会員に現場諸問題の報告討議の「月例会」呼び掛けの手紙が発送され、その第1歩を踏み出しました。

支部総会迄残された時間はあと1ヶ月。各大学図書館における今後1ヶ月の取り組み如何がこの一年の活動の評価を左右することになるでしょう。

### 5) 支部報の発行

前年度に引き続き月刊発行を基本的に堅持しました。

内容は大図研大学の紹介・報告、職場の実態、小論文などかなり多彩でした。なかでも京大篠原氏「医学図書館員の現在」（No.84、1月）は非常に好評でし

た。『大学の図書館』にも「列島 Power」で感想が紹介されました。また、京都橘の若林氏「新米図書館員と新入生の図書館オリエンテーション」(No.89、6月)も清新フレッシュな内容と可愛いイラストでめずらしい京都の支部報と他支部から注目されました。

今後より一層具体的にテーマ的を絞った職場の実状、問題点、実践報告に力を入れ、且つ、小論文やエッセイを含め、幅広い記事を掲載するなど会員に親しまれ、役に立つ支部報となるようさらなる努力が求められています。

## 6) 班活動

全体としては前年度に引き続き停滞気味でした。会員外にも開かれた職場の諸問題を討議する会など工夫をこらした班活動の模索が必要でしょう。いずれにしても現場実践を重視する運動は班活動の発展なしには困難です。

大図研活動の最重要部分の一つとして今後意識的に班活動の発展・促進に取り組む必要があるでしょう。

## [ II ] 1992年度活動の方針

私たちは困難な状況にあるからこそ不断の継続研修に励み、経験と知恵を出し合い、助け合い、励まし合って図書館現場の改善・発展に努めることが必要となっています。そしてそのためにこそ大図研があります。

現場実践重視の運動の第2年度にあたり先ずこの原点を再確認し、団結し、日本図書館協会、教職員組合など他の民主団体とも協力共同し、国民に真に開かれた大学、利用者本位の図書館創造に向けて活動します。

### 1) 幅広い活動の中で現場実践を重視し、役に立つ大図研を目指します

基本的知識・理論から日常業務の具体的諸問題探究等幅広く活動し、そのなかで自己評価をはじめ大学および図書館改革の動きや問題点の解明に努めます。

### 2) 大図研大学第Ⅲ期を開講します

来春を目途に今年度も大図研大学を開講します。

現場の実態と会員の要求を良く分析しテーマを設定します。また、参加しやすい日程を追及します。

### 3) 魅力ある役に立つ支部報の月刊発行に努めます

会員間の最も基礎的なコミュニケーションとして支部報を重視します。職場の実情、問題点、実践報告、小論文、エッセイなど会員から親しまれ、読めば意欲の湧く支部報を目指します。

### 4) 班活動を重視し、その発展に力を注ぎます

現場の問題意識を基礎にし、仕事にも役立つ、会員外にも開かれた月例会など班活動の発展を目指す工夫を会員の叡智を集めて行ないます。

班のない大学は班を組織することを目指します。

### 5) 会員を増やします

自館の問題点を会員外の図書館員ともよく話し合い、大図研の方針や企画、実践報告や成果を知らせ、大図研への参加を訴えます。

図書館をよく利用する教員にも大図研の方針や自館の問題点、私たちの実践方針を知らせ、大図研への参加を訴えます。

### 6) 会費を全員が、全額を、前納します

大図研の財政は危機的状況です。京都支部の会費納入率の動向は全国的にも大きな影響を持っています。

文字通り全員が積極的に会費を納入しましょう。

【以下の議案は当日配布】

**第2号議案** 1991年度決算報告と  
1992年度予算および  
会計監査報告

**第3号議案** 1992年度支部役員選挙